

鉄骨工事 Q&A	デッキ・スタッド	鉄筋付きデッキ	制定	2011年8月1日
			改訂	2019年4月1日

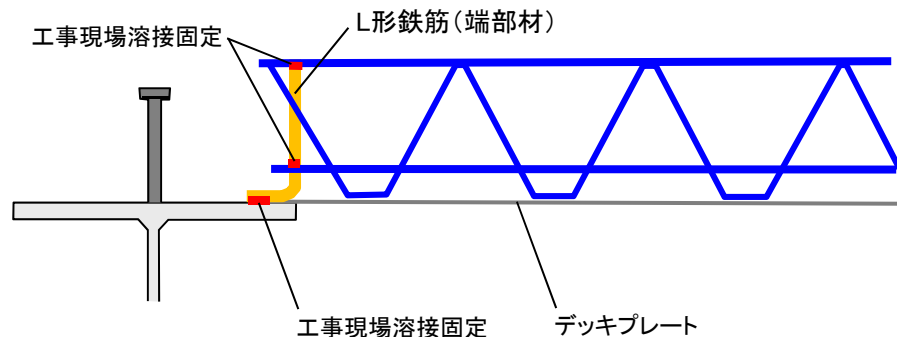
Q. 鉄筋付きデッキと梁との固定時の注意点は？

A.

トラス状の鉄筋と鋼製捨て型枠で構成される鉄筋付きデッキは、所定のスパンまでノンサポートで施工が可能です。スラブ鉄筋付きのデッキであることから工期短縮や、南洋材の使用削減に効果を発揮できる省略化工法として、S造の物件を中心に多くの現場で採用されています。

(1) 梁との固定方法について

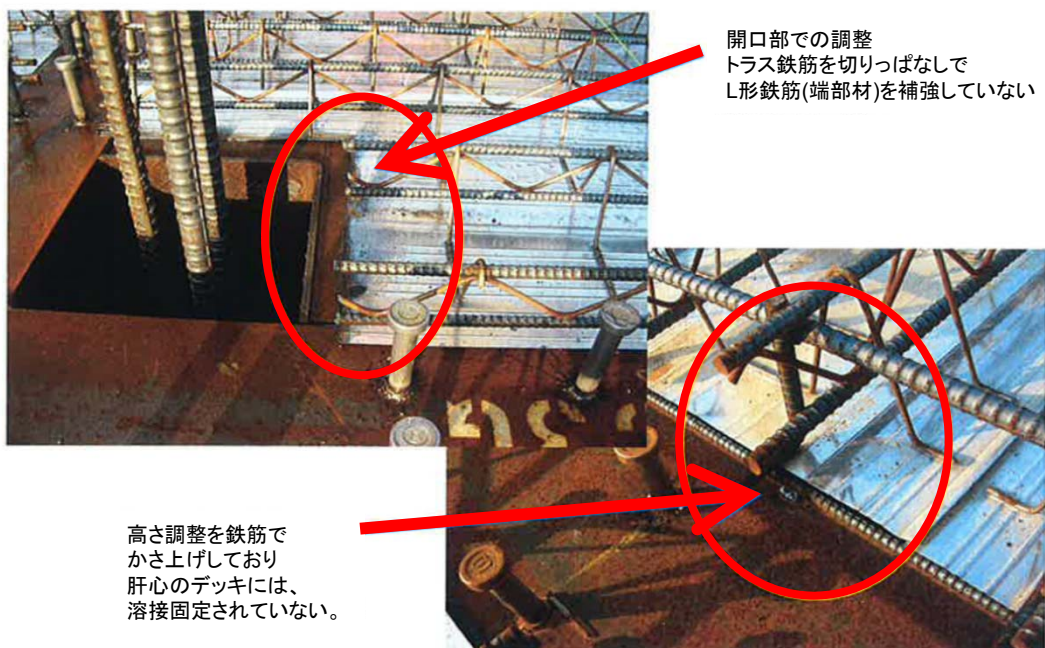
合成デッキや型枠鋼製デッキは、デッキプレートと梁との接合にアークスポット溶接もしくは焼き抜き栓溶接で直接デッキプレートと梁を溶接固定します。鉄筋トラスデッキにおいては、デッキプレート自体が平板であり打設したコンクリートの荷重はトラス筋が負担するために、例えばあるメーカーの製品では、鉄筋端部のL形鉄筋(端部材)を梁に架けて、工事現場溶接することで固定しています。



鉄筋付きデッキ

(2) 注意点

鉄筋付きデッキ敷き込み後に設備開口等のサイズ変更対応で、現場で鉄筋を切断すると、L形鉄筋(端部材)を失った状態となり荷重がかかった時点で、床が崩落する可能性があります。特に、柱周りや、梁継手部のスプライスプレート部分などは、鉄筋付きデッキプレートと鉄筋トラスを現場切断して納めることとなります。その際に、L形鉄筋(端部材)をトラス筋に工事現場溶接して取り付け、デッキ受けにしっかり工事現場溶接することが必要であり注意してください。



開口部での調整
トラス鉄筋を切りっぱなしで
L形鉄筋(端部材)を補強していない

高さ調整を鉄筋で
かさ上げしており
肝心のデッキには、
溶接固定されていない。